琉球大学学術リポジトリ

琉球版人生ゲームで学ぶ　琉球の歴史と社会

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学附属図書館 公開日: 2019-07-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田, 勇樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44706

【第２回さいえんす御殿】

琉球版人生ゲームで学ぶ琉球の歴史と社会

２０１９年７月１８日（木）

講師：前田勇樹（附属図書館職員、歴史研究者のフリーター）

連絡先：myuuuki@jim.u-ryukyu.ac.jp ／ y.infrontofaricefield@gmail.com

「この双六はいつ頃出来たものであろうか一寸分からない、恐らくはかう云ふものがあると云ふ事すら知らぬ人が多からう。自分等の少年の頃、或友達の内で遊んだ事があったので、あれはなんでも琉球の官制を調べるに参考になるものであつたと、十四五年も立つた今日やつと思ひ出し、聞合せて遣つた処幸ひに探し出して送つて呉れたのがこれである。琉球でも知らぬ人が多からう。（東恩納1936）」

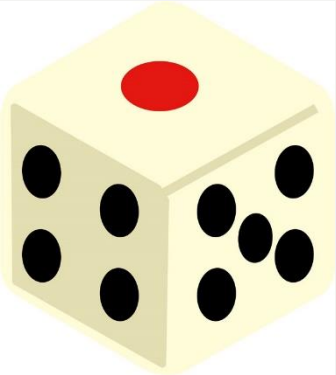
沖縄県立図書館HPより
http://archive.library.pref.okinawa.jp/?type=map&articleId=50407

「聖人上」のルール

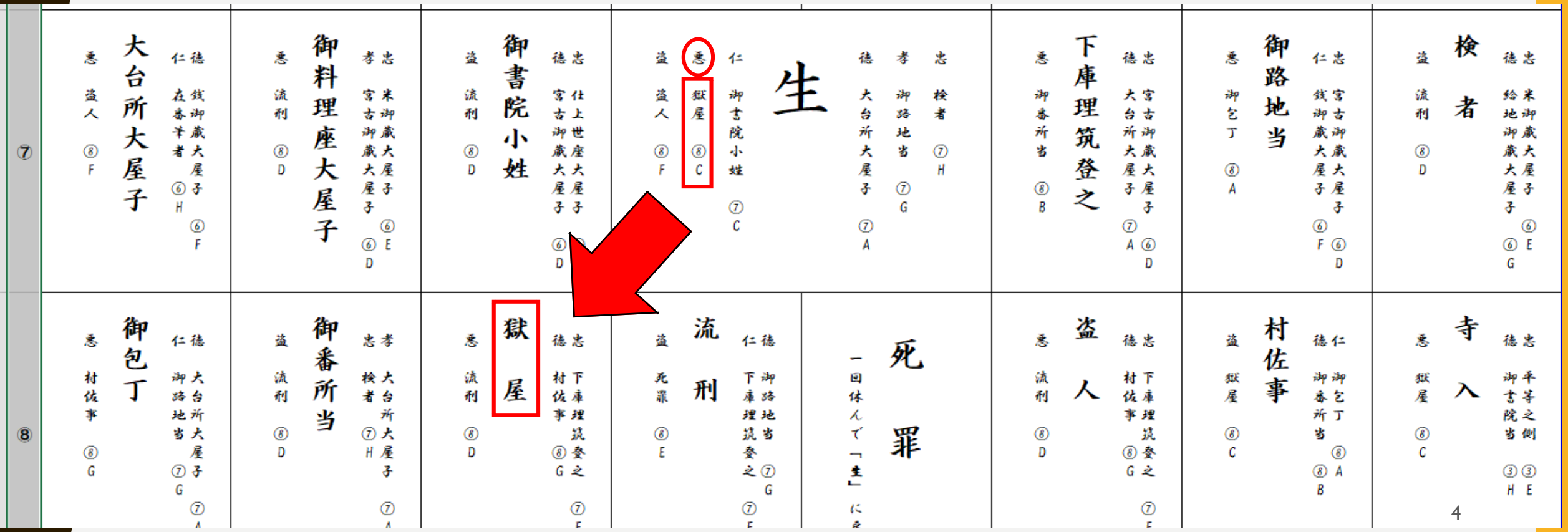
- 下から２段目中央の「生」からスタート
- 盤に書かれている「悪」「盗」「仁」「徳」「孝」「忠」を次の采の目に対応。その下に書いてあるマス（役職や刑罰など)へ進む

１＝「悪」	２＝「盗」	３＝「仁」
４＝「徳」	５＝「孝」	６＝「忠」

- マスの指示がない場合は、その場に留まる
- 最上段の「聖人」がゴール
- 最下段の「死罪」になったら、一回休んで自分のこれまでの人生を振り返り、また「生」からやり直す



例）一投目　１＝「悪」
「生」　→　「獄屋」


⑦
⑧
大台所大屋子
御料理座大屋子
御書院小姓
生
下庫理筑登之
御路地当
検者
御包丁
御番所当
獄屋
流刑
死罪
盗人
村佐事
寺入

例）一投目　１＝「悪」
「生」　→　「獄屋」

© University ot the Ryukyus Library

⑧-H　**寺入**（てらいり）・・・お寺で何日か過ごす刑罰
⑧-G　**村佐事**（むらさじ）・・・先島（宮古・八重山）の貢納を監督する役職。百姓が担った職
⑧-F　**盗人**（ぬすびと）・・・泥棒のこと
⑧-E　**死罪**（しざい）・・・処刑のこと。琉球では竹やりで四方から串刺しにした!?　安謝で斬首が一般的
⑧-D　**流刑**（るけい）・・・島に流される事。琉球では働かないニートを親戚の訴えで島流しにしたとか…
⑧-C　**獄屋**（ごくや）・・・牢屋に入れること
⑧-B　**御番所当**（ごばんじょあたい）・・・首里城の門番役と思われる
⑧-A　**御包丁**（ごほうちょう）・・・料理人のこと。中華から和食まで手広かったとか
⑦-H　**検者**（けんじゃ）・・・王府から地方に派遣された行政役人
⑦-G　**御路地当**（ごろじあたい）・・・お掃除担当の役人　琉球王国のダスキン
⑦-F　**下庫理筑登之**（しちゃぐいちくどぅん）・・・首里城正殿一階にある下庫理の雑役
⑦-C　**御書院小姓**（ごしょいんこしょう）・・・国王の執務室(御書院)の雑用係。良家の坊ちゃん達が顔見せのため働いていた
⑦-B　**御料理座大屋子**（おりょうりざおおやこ）・・・首里城内の食料や調理を管理する役職。貴賓のための高級料理を担当
⑦-A　**大台所大屋子**（おおだいどころおおやこ）・・・国王の日常の食事や簡単な接待料理も行う役職
⑥-H　**在番筆者**（ざいばんひっしゃ）・・・首里から宮古・石垣に派遣された書記官
⑥-G　**給地御蔵大屋子**（きゅうちおくらおおやこ）・・・各地域からの貢納を管轄した役職
⑥-F　**銭御蔵大屋子**（ぜにおくらおおやこ）・・・雑税の収納や儀式で使う酒の管理などを担った役職
⑥-E　**米御蔵大屋子**（こめおくらおおやこ）・・・貢納品の米を管轄した役職
⑥-D　**宮古御蔵大屋子**（みやこおくらおおやこ）・・・先島(宮古・八重山)からの貢納品を管轄した役職
⑥-C　**仕上世座大屋子**（しのぼせざおおやこ）・・・琉球から薩摩への年貢を管轄した役職

⑥-B　**脇筆者**（わきひっしゃ）・・・王府の各役所に勤める書記官の補佐役。基本無給だが、「星功」というポイントをもらえる。
⑥-A　**大筆者**（おおひっしゃ）・・・進貢船・諸役所の書記官のリーダー
⑤-H　**帳当主取**（ちょうあたいぬしどり）　・・・給与など王府財政に関わる役職
⑤-G　**御評定所主取**（ごひょうじょうしょぬしどり）・・・評定所の事務を担当する役職
⑤-F　**御物座帳当**（おものざちょうあたい）・・・王府や各村の財物の記録や薩摩への上納物を調達する役割
⑤-E　**御右筆主取**（ごゆうひつぬしどり）・・・行政文書や任命文書の作成を行った役職
⑤-D　**普請奉行**（ふしんぶぎょう）・・・土木建築を管轄する役所の長官
⑤-C　**山奉行**（やまぶぎょう）・・・山林竹木を管轄する役所の長官
⑤-B　**取納奉行**（しゅのうぶぎょう）・・・年貢など諸上納物を管轄する役所の長官
⑤-A　**貝摺奉行**（かいずりぶぎょう）・・・漆器など工芸品を管轄する役所の長官
④-H　**加治奉行**（かじぶぎょう）・・・金属器具製作を管轄する役所の長官
④-G　**小細工奉行**（こざいくぶぎょう）・・・王府や王室の裁縫や畳の製作などを担当する役所の長官
④-F　**御用物奉行**（ごようものぶぎょう）・・・中国、薩摩、幕府への貢物の調達を担当する役所の長官
④-E　**御船手奉行**（おふなてぶぎょう）・・・船の造船、修理などを管轄する役所の長官
④-D　**官者**（かんしゃ）・・・「官舎」のこと。中国への貿易の際に現地で貿易業務を行う役人。　中国でショッピング！
④-C　**砂糖奉行**（さとうぶぎょう）・・・琉球産の黒糖やウコンの納入を行い、日本への輸出を担当した役所の長官
④-B　**才府**（さいふ）・・・官舎と同じく中国貿易を担当。中国でショッピング＆無事帰ってくると出世の道が・・・
④-A　**高奉行**（たかぶぎょう）・・・国内の田畑からの収穫高を管轄する役所の長官
③-H　**御書院当**（ごしょいんあたい）・・・国王の執務室を担当する係官
③-G　**吟味役**（ぎんみやく）　★６人　・・・所帯方、給地方、用意方、双紙庫理、泊地頭、平等方の次官(ナンバー２)

③-F　**泊地頭**（とまりじとう）★・・・泊村の行政、戸籍、寺社、土木、工芸などの仕事を管轄
③-E　**平等之側**（ひらのそば）★・・・裁判所の長官
③-D　**御双紙庫理**（おそうしくり）★・・・役人の給与などを管轄する役所の長官
③-C　**御鎖之側**（おさすのそば）★・・・いまでいう外務省と文部科学省を兼ねた役所の長官
③-B　**唐勢頭**（とうせど）・・・官舎や才府と一緒に中国貿易を行う役職。進貢船の長官(リーダー)。
③-A　**紫冠**（しかん）・・・役所や役職ではなく、位階。冠＝ハチマキ。王族以外では一番位が高い
②-H　**御物奉行**（おものぶぎょう）★3人・・・財務を司る長官
②-G　**年頭親方**（ねんとうおやかた）・・・薩摩への新年の挨拶へ向かう琉球使節の代表者
②-F　**御書院奉行**（ごしょいんぶぎょう）・・・首里城にある国王執務室の長官
②-E　**三司官座敷**（さんしかんざしき）・・・三司官クラスの待遇が受けれる「仮三司官」
②-D　**三司官**（さんしかん）・・・王府行政の実質的トップ。三人制。選挙で選ばれる。
②-C　**按司**（あじ）・・・本来は地方の豪族。後に位階のひとつになり、王族との血縁者がほとんど。
②-B　**御弟部座敷**（おとうとべざしき）・・・王族の男子。「座敷」がついているので「仮」
②-A　**御弟部**（おとうとべ）・・・正真正銘の王族男子
①-H　**忠人**（ちゅうじん）・・・儒教の重要な徳目。「忠義」のある人物
①-G　**智者**（ちしゃ）・・・儒教の重要な徳目。「智(道理をよく知っている)」のある人物
①-F　**賢人**（けんじん）・・・聖人に次ぐ徳のある(儒教道徳を体得している)人物
①-C　**亞聖**（あせい）・・・聖人に次ぐ徳のある(儒教道徳を体得している)人物
①-B　**仁者**（じんしゃ）・・・儒教の重要な徳目。「徳(他人に対する親愛の情)」のある人物
①-A　**摂政**（せっせい）・・・三司官より高位な役職。王族から1人選ばれる形式的な役職(⇔実質的なトップは三司官)

解説のポイント

- **盤の区切れ**

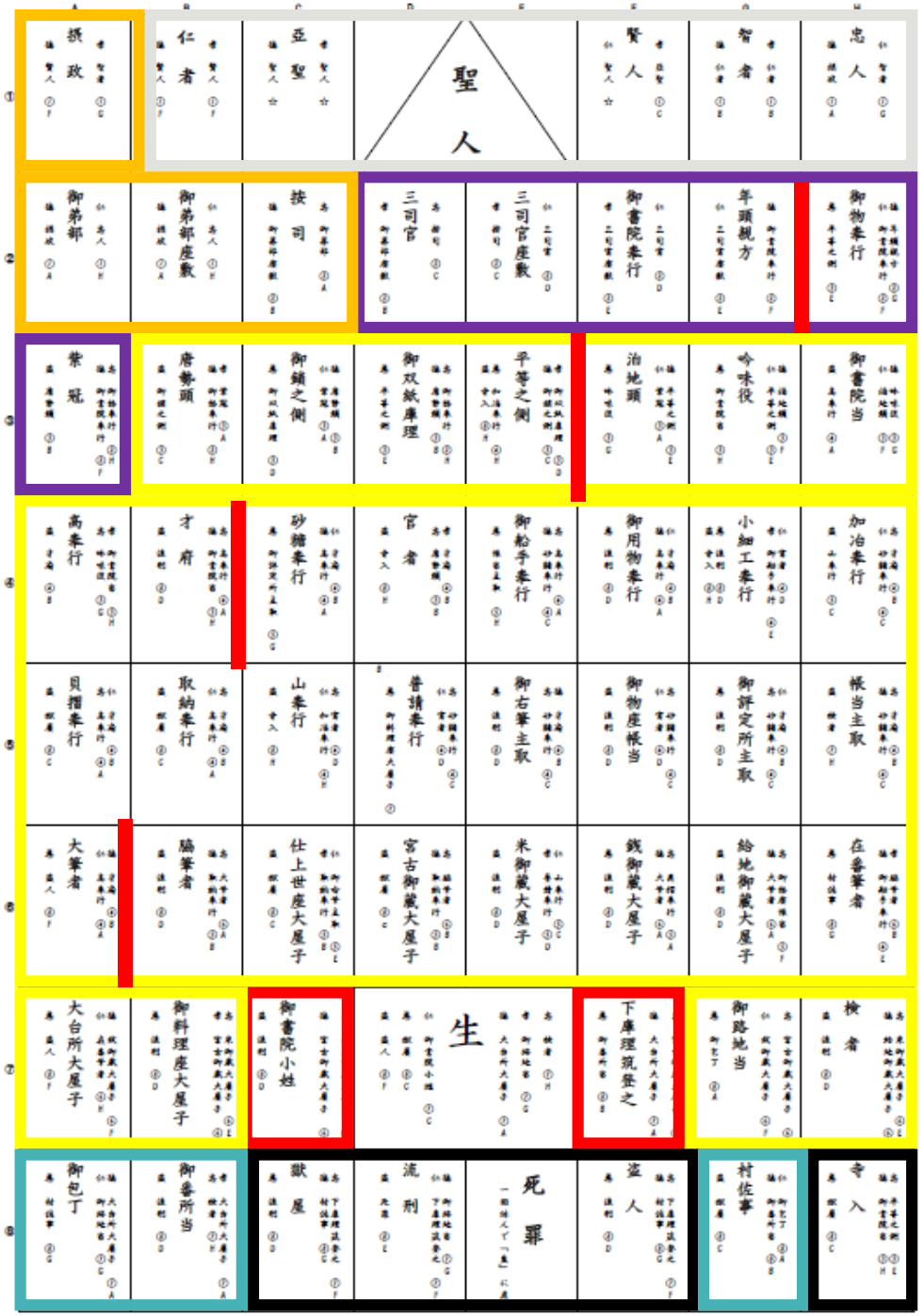
  結構しんどい身分制社会

- **刑罰**

  流刑多すぎんか？
  謎の寺入ワーーーープ

- **ターニングポイント**

  ①御物奉行　－ road to 三司官 －
  ②才府　　－ dead or 出世－


聖人
忠人
智者
賢人
亞聖
仁者
摂政
御物奉行
年頭親方
御書院奉行
三司官座敷
三司官
按司
御弟部座敷
御弟部
御書院当
吟味役
治地頭
平等之側
御鎖之側
御双紙摩理
唐勢頭
紫冠
加治奉行
小細工奉行
御船手奉行
御用物奉行
官者
砂糖奉行
才府
高奉行
帳当主取
御評定所主取
御物座帳当
御右筆主取
普請奉行
山奉行
取納奉行
貝摺奉行
在番筆者
給地御蔵大屋子
銭御蔵大屋子
米御蔵大屋子
宮古御蔵大屋子
仕上世座大屋子
臨筆者
大筆者
検者
御路地当
下庫理筑登之
生
御書院小姓
御料理座大屋子
大台所大屋子
寄入
村位事
盗人
死罪
流刑
獄屋
御番所当
御包丁

刑罰

「死罪」に落ちるには	**１マス**	流刑からのみ
「盗人」に落ちるには	**３マス**	３段目まで
「獄屋」に落ちるには	**７マス**	４段目まで
「流刑」に落ちるには	**１６マス**	５段目まで
「寺入」に落ちるには	**４マス**	６段目まで

⇒**「流刑」が圧倒的に多い。**

※王国時代には働かない「きまかせ者」(ニート)を家族が島流しにした事例も…

・琉球での刑罰の特徴
　→夥しい数の流刑
　→死刑は意外に少ない（抑止力として制定されているのみ？）

　⇒聖人上のマスは実態を反映

・「寺入」の解釈
江戸時代日本の寺入　①謝罪・謹慎　②処罰・制裁　③救済・調停

琉球での「寺入」　・・・　実態はわからない
　処罰？　救済？　←**<u>聖人上での異常なループから想像してみよう！</u>**

ターニングポイント

【御物奉行】

・「御物奉行」　→　「年頭慶賀使」（旅役）

・田名真之（１９９２：１７２頁）　「総地頭クラス」に関する記述より

「通常、表十五人から親方さらには三司官と進む過程で、対内的には各役座の奉行、御物奉行、総与頭などを歴任し、対外的には中国に耳目官、謝恩男舅、薩州・江戸に年頭使、諸使者、江戸上りの副使などの役に任じられる人物が多く」

【才府】

・「才府」に行ける職　＝　定役（無任期）

　「才府」に行けない職　＝　年季役（任期あり）や心付役（最初は無給）

・「才府」のリスク　＝　「旅役」（死出の旅）のリスク？

　　→琉球社会において旅役は**ハイリスク・ハイリターン**

参考文献

・上里隆史『マンガ沖縄・琉球の歴史』河出書房新社、2016年
・遠藤欣一郎「「聖人上」の背景」『琉球の文化』4号、1973年
・沖縄県立図書館史料編集室編『沖縄県史料 前近代6 首里王府仕置2』沖縄県教育委員会、1989年
・嘉手納宗徳「沖縄の双六『聖人上』」『琉球の文化』3号、1972年
・喜舎場朝賢『東汀随筆』至言社、1980年
・金城朝永校訂『沖縄法制史』山岡書店、1953年
・崎濱秀明『沖縄旧法制史料集成』第一巻、非売品、1964年
・崎濱秀明『沖縄旧法制史料集成』第二巻、非売品、1966年
・崎濱秀明『沖縄旧法制史料集成』第四巻、非売品、1968年
・田名真之『沖縄近世史の諸相』ひるぎ社、1992年
・渡口真清『近世の琉球』法政大学出版局、1975年
・仲村顕編『はじめての象棋』東洋企画、2011年
・東恩納寛惇「旧琉球の位階制度」1918年、『東恩納寛惇全集』4巻、1979年
・東恩納寛惇「随筆　童景集」1935年、『東恩納寛惇全集』5巻、1978年
・東恩納寛惇「琉球の双六」1936年、『東恩納寛惇全集』10巻、1982年
・比嘉春潮、崎浜秀明『沖縄の犯科帳』平凡社、1965年
・真栄平房昭「首里城の女たち－大台所で働く「あねべ」たち」『首里城研究』8号、2006年
・森拓実「「聖人上」論 ― 盤から見る近世琉球における出世と儒教的背景」
琉球大学法文学部琉球アジア専攻平成26年度卒業論文
・山田浩世「近世琉球における才府就任－旅役と地頭所分配の関係をめぐって」『沖縄文化研究』45号、2018年
・琉球新報社編『新琉球史　近世編（上）』琉球新報社、1989年